

子育て支援研究会

研究会の主旨

- ・急速な少子高齢化の進展や核家族化など、家庭や地域を取り巻く環境が大きく変化する中で、次代を担う子どもが健やかに生まれ育成される社会や環境の形成が重要な課題となっています。子どもが元気に育つことができ、安心して子育てのできる社会の実現のために、今後の都市や建築で何が必要なのかを研究し、今後の施設設計や企画提案活動に活かすために、2012年に「子育て支援研究会」を立ち上げました。

研究テーマ

- ・女性の社会進出や核家族化に伴う子育てへの支援
- ・怪我や病気で満足に学校に通えない児童生徒への支援
- ・家でも学校でもない子どもの遊びや学びの場づくり（子どものサードプレイス）

事例1 釜石市鶴住居仮設児童館



オープニングセレモニーの様子

- ・マニユライフ生命の寄付によるコンテナボックスの仮設児童館を監修
- ・小学生だけでなく中学生までを視野に入れた子どもたちのための空間を提案

事例2 豊橋市こども発達センター



プレイルーム

みんなのもり環境遊具

- ・子どもの発達障害の早期発見・診断につながるプレイルームとみんなのもりの提案・設置

知恵の連携・統合についての報告

ーグリーンビル研究会ー

- ・2009年に、空間緑化において豊富な実績を持つ株式会社グリーン・ワイズと共同で「グリーンビル研究会」を立ち上げました。
- ・ライフスタイルの視点から「建築と緑の融合がもたらすもの」を掘り下げ、空間づくりを企画から管理までトータルに提案します。
- ・2010年には、東京ガス主催の「第24回建築環境デザインコンペティション（課題：地球に生きる）」にて佳作に入賞し、そのアイデアを足立区新田小学校跡地に当てはめてケーススタディを行っています。

人の視点／生活を豊かにする



- ・生活のシーンが様々であるのと同様に、緑の特性も様々です。
- ・私たちはシーンに応じて最適な緑を選び、それらを空間の中に効果的に配置し、そこにいる人の気分を演出します。

街の視点／街のブランドをつくる



- ・街のシンボルとなっている場所には必ず緑があり、また緑豊かな街は不動産評価においても高い価値が認められています。
- ・私たちは街に対して存在感のある緑空間を、ソフトとハードの両面から提案します。

地球の視点／未来の環境を保全する



- ・地球温暖化の防止や生物多様性の保全は、地球をあげて取り組むべき重要な課題となっています。
- ・私たちは小さな緑空間でも、地球を構成する重要なピースとして、いきものたちの大切な住処として、注意深く計画していきます。

RESEARCH ACTIVITIES

Mar.2012

Vol.5

ライフスタイルデザイン研究所の活動状況

- ・当社では、社会状況の変化に対応したライフスタイルの変化が都市や建築をどのように変えていくのかについて、社内外の「知恵の連携と統合」を進めながら、多くの研究と提案を行っていきたいと考え、「ライフスタイルデザイン研究所」を設立しています。
- ・その活動の一つとして、人口減少や少子高齢化による逆都市化にスポットを当てた「シュリンキング・シティ（縮小する都市）研究会」を2009年より立ち上げておりますが、この他に、社外と連携して複数の活動を行っています。
- ・震災復興研究会は、東日本大震災を受けた復興計画案を検討する研究会です。当社、梓設計、久米設計、佐藤総合計画、松田平田設計の設計事務所5社が2011年7月に立ち上げた震災復興組織設計協議会において、岩手県、宮城県の四つのモデル地域における復興計画案を検討し、2012年1月に提言を行っています。当社は震災復興研究会が岩手県山田町をモデル地域としてこれに取り組みしました。
- ・今年に入ってから、新たな研究会として子育て支援研究会を設立しました。子どもが元気に育つことができ、安心して子育てができる社会の実現のために、都市や建築で何をすべきなのかをテーマとして研究し、この研究が病院・学校・保育施設・公共施設などの施設設計や企画提案活動の中で活かせることを目指します。

ライフスタイルデザイン研究所

シュリンキング・シティ研究会

震災復興組織設計協議会

震災復興研究会

梓設計
久米設計
佐藤総合計画
松田平田設計

子育て支援研究会

株式会社 安井建築設計事務所

ライフスタイルデザイン研究所

震災復興組織設計協議会の概要

目的

震災復興組織設計協議会のメンバーである安井建築設計事務所、梓設計、久米設計、佐藤総合計画、松田平田設計の5社が建築・まちづくりのノウハウを結集し、岩手、宮城県内の4つのモデル地域において現実的可能性の高い、地に足のついた復興計画案を社会に提言する。

活動方針

被災地の大学生と協力して災害の基礎データを収集するなど、被災状況の調査、分析を行い、リアリティのある復興計画ビジョンを設定。さらに復興計画ビジョンをベースに共通提案を掲げ、4つのモデル地域に落とし込んだ。今回提案した復興計画のたたき台となるプランをもとに、被災地の自治体や大学と意見交換し、社会や経済界への提言を通じて復興に寄与する。

復興の担い手となり長期的なまちづくりを担う若い学生に対しては、協議会として持続的に支援、連携体制をとる。あわせて、これから計画を具現化する中で、各社の持つ様々なネットワークを活用し、ほかの設計事務所や異業種との連携も視野に入れる。

7つの視点

- 【①次世代に向けた新たな都市像の形成】：少子高齢化等の課題に対応した都市づくり
永く住み続けられる都市づくり
- 【②東北地域全体の活性化】：広域的視点を持った交通等のインフラ整備
単独の市町村でなく広域的な連携での活性化
- 【③災害に強い都市】：安全で他地域のモデルとなる都市づくり
災害時の一定期間、自立可能な都市づくり
- 【④都市の魅力の再生と創出】：東北の美しい海や緑の風景の再生
自然や歴史を活かした観光資源の活用と創出
- 【⑤産業の重層化】：単一の産業に依存しない都市づくり
新産業創出及び既存産業のマッチング
- 【⑥社会基盤の再構築】：少子高齢化社会に対応した生活基盤の形成
新しいコミュニティの形成
- 【⑦実現可能な手法やプロセスの提言】：早期復興を実現するための事業手法
法規、資金等クリアすべき課題の整理

共通提案

- 津波に強い都市基盤の構築：地域特性に応じた緑の丘による津波防御
都市インフラ（鉄道・道路）による防波堤機能
- 都市と建築の連携：人工地盤の連結による都市レベルの安全確保
コンパクトシティによる防災に必要な機能の集約
- 住まいと働く場の再構築：居住地域の選択の多様性
雇用の創出と地域コミュニティの再構築
- 美しい東北の風景の再生：緑の丘による海と緑による美しい風景の再生
いぐね（屋敷林）や田里山等伝統風景に配慮した計画
- 地域の実情に応じた事業計画：民間の力をフル活用する事業スキーム
海外からの投資を誘発する魅力ある開発

4つのモデル地域の提案

リアス部モデル-1ー山田町

高台と漁港を結ぶネットワークの構築

- ・防災施設を活用する緑の丘による津波防御
- ・避難・救護・復旧の動線を活用する多重ネットワークの形成
- ・防災施設の日常融和と多重の価値の創出

リアス部モデル-2ー気仙沼市

安心・安全のレイヤーを重ねる新たな都市復興

- ・連続する「緑の丘」
- ・増殖する安全な人工地盤「シーテラス」
- ・重層化した安全を確保する「スマートインフラ」

中間部モデル-石巻市

同じ場所に住み続けることを可能にする都市基盤の整備

- ・安全性と利便性を両立させる「緑の丘」
- ・防災インフラ（河川堤防・盛土道路）と復興共同ビルの一体整備による早期復興

平野部モデル-山元町

エコウェルネスタウン山元町

- ・エコ：再生可能エネルギーによる電力の地産地消
- ・ウェルネス：医療と観光の連携によるまちづくり

リアス式海岸モデル1 岩手県山田町山田地区

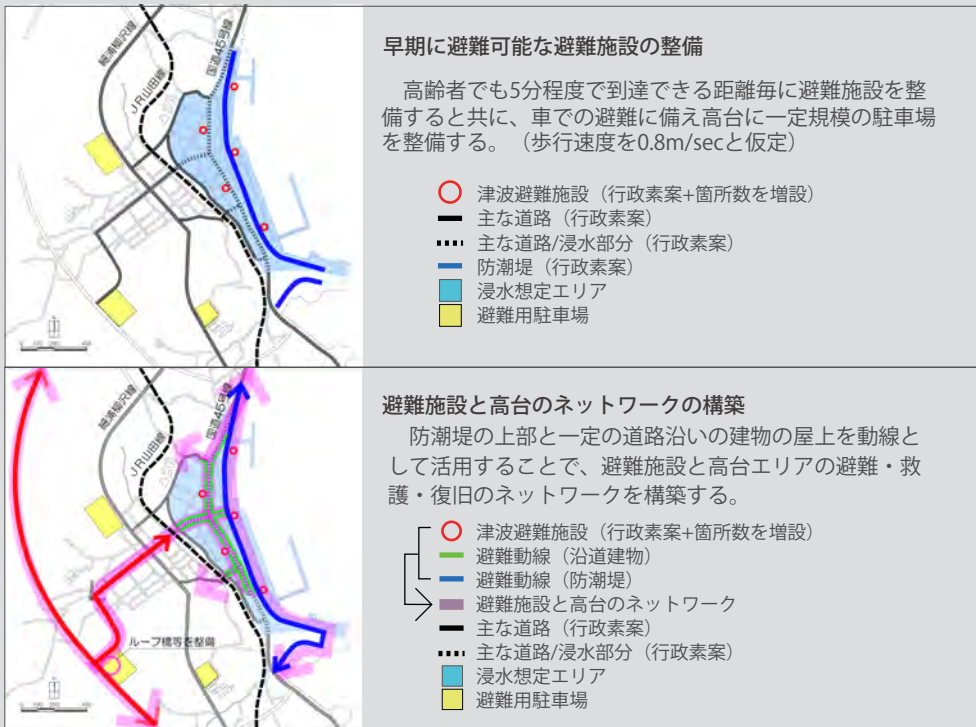
人・まち・暮らしをつなぐ多重ネットワークによる都市復興



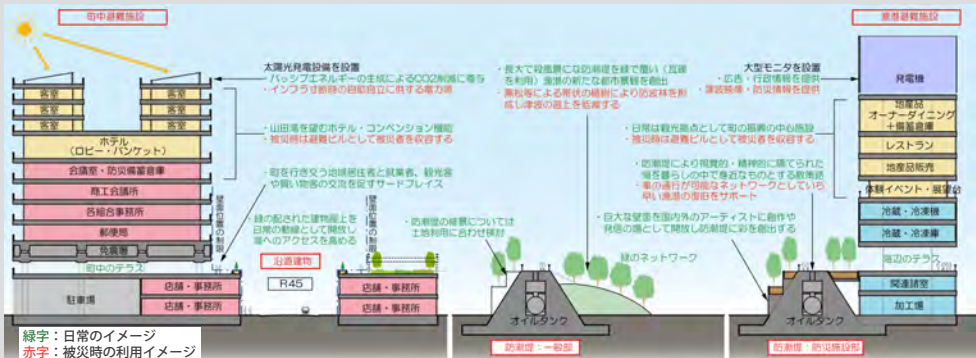
提案におけるイメージ鳥瞰パース

防災ネットワークの形成と活用 ー避難・救護・復旧の動線を活用する多重ネットワークの形成ー

■避難・救護・復旧のネットワークの形成



防災施設の利用イメージ ー避難施設の日常融和と多重の価値の創出ー



津波到来時のシミュレーションモデル



3.11東日本大震災前



3.11東日本大震災時（津波の海面高さ想定：9m）



3.11東日本大震災直後



提案における東日本大震災クラスの津波到来時（想定）